

概要

この戯曲は、4つのモノローグから構成されています。

カプセルの章

この章では、「スーパーマーケットの商品」の違いがわからなくなった男が、精神病院に送られて去るまでが物語られます。スーパーマーケットで啓示を受けた男は、「正午」に到達します。彼は収容先の精神病院で老人たちを解放し、また別の「正午」に向かいます。章のタイトルである「カプセル」は、彼の世界認識を表しており、独白の中で繰り返し登場します。

カワゲラの章

この章では、「異物を駆除するべきだ」とある女の子に教唆された男が、路上生活を始め、彼を襲撃した少年に暴力をふるうまでが物語られます。フリーターであった彼は、ある日友人の女の子の話を聞き、自分の内面にあった排除願望に目覚めます。その願望を実行に移すべく、生活を捨て橋の下で路上生活を始めます。エアガンを購入した彼は、「訓練」に励みます。しかし、二日目の夜、少年グループにホームレスとして襲撃されます。そのうちの1人をエアガンで反撃し、意識を失わせた彼は、少年の持ち物を奪って去っていきます。

ドブ蛇の章

この章では、「ドブ蛇」と呼ばれるドラッグを復活させたい男の妄想が物語られます。彼は、彼を「養ったもの」がかつて「ドブ蛇」の尻尾にある膿を摂取してトリップ状態になっていたと考えています。現在の自分たちも彼らと同様に不幸なのだから、その「ドブ蛇」でハイになる必要があり、そのためには絶滅したかのようにみえる「ドブ蛇」を見つけるために地上を海に戻さなくてはならないと語ります。

星座の章

この章では、普通なのに普通でないと思っている女の独白が語られています。女の生活の中での違和感や、焚き火遊び、見えるものをイメージから削除していく「昔ごっこ」について話します。そのあと、しかしそんな疎外された存在は他にもおり、そういったものたち同士であれば通じ合えるのではないかと述べ、話を終えます。

この戯曲は、初期教典スッタニパータに収録されている「蛇の章」第3経「一角の犀」をモチーフにしています。

「犀の角のようにただ一人歩め」（中村訳）のリフレインで有名な経をモチーフに、現代の若者が、内面の疎外から反転して、連帯をイメージするための物語を作ることを試みました。

なお、執筆にあたっては、以下の2冊を参考にしました。

- 荒牧 典俊、本庄 良文、榎本 文雄「スッタニパータ [釈尊のことば] 全現代語訳」講談社学術文庫、2015年
- 中村元「ブッダのことば: スッタニパータ」岩波文庫、1984年